

地域課題に取り組むPBL体系の拡充 —ALを4年間の継続した学びとする取組み—

徳山大学

寺田篤史・中村真理・大隅 絢夏・中嶋克成・河田正樹

1 ALを4年間の継続した学びとする取組み

徳山大学のAP事業は、「主体的な学びの場を提供する教育の質の転換」の実現のための、「AL教育全般」を底上げする組織的・全学的な授業改革の取組みである。本学のAP事業では、①すべての授業におけるALを促進しその進捗度・効果を可視化するための指標（BAL）の導入およびその活用と②地域課題をテーマとする課題解決型学習（PBL）の推進によるAL体系化、の二つを事業の主要な柱として全学的AL推進に努めてきた。本発表は後者の取組みに関する報告である。

これまで本取組みでは、卒論作成に向けた3・4年次「専門ゼミⅠ・Ⅱ」（経済学部：選択必修、福祉情報学部：必修）を専門知識を活用した本格的PBLと位置づけ、これに接続するためのPBL入門科目「地域ゼミ」を2年次に新設・必修化するなどPBL学習体制を整えてきた。

2019年度はこの体制の拡充を意図して、一部の「専門ゼミ」を「山口型PBL」で実施した。

2 専門ゼミⅠへの「山口型PBL」の導入

「山口型PBL」とは、企業や自治体等からテーマと活動資金の提供を受け実施されるプロジェクト型学習で、地域が求める人材の輩出・育成に向けた環境整備のため、山口県が県内大学への普及を進めている授業モデルである。2019年度、3年次「専門ゼミⅠ」のうち3ゼミを山口型PBLで開講した。

3 実践事例「Webメディア（Tokuyamap）を活用した地域情報の発信」

本発表ではそのうちの一つ「Webメディア（Tokuyamap）を活用した地域情報の発信」について報告する。本ゼミでは、市内のまちづくり企業である「㈱まちあい徳山」をパートナー企業とし、その事業の一つである地域情報発信Webサイト「Tokuyamap」のページビュー(PV)・ユニークユーザー(UU)数の向上をテーマとして活動した。学生はTokuyamapの公認ライター「とくだいせい」としてサイトの記事を書きながらこの課題の解決に取り組んだ。これをもとに「記事内には店舗位置等を示す地図はあるが、Tokuyamapという名称にもかかわらずサイト内の記事が周南地区のどの場所についての記事なのかわかるような視覚的な情報がない」「そもそもTokuyamapの知名度が低い」等の気づきを得て、「①親しみやすい手書き風の地図コンテンツ作成」「②店舗に掲示するPOP類作成」といった提案を行っていくこととした。

①については、(A)既存の地図サービスを活用し、Tokuyamapで紹介されたスポットとその記事へのリンクを地図上に表示する方法、(B)「とくだいせい」作成の動画・記事名のリストとその記事内容を反映した親しみやすい手書き風地図を掲載する方法が考えられた。②についてはどのような内容を含むか等を検討した。いずれも連携企業から関心をもっていただき、本要旨執筆現在、手書き風地図やPOPデザイン等をスキルマーケットサービスを活用して発注するなどして作成を進めている。

学生作成の記事については、これまでTokuyamapにはなかったタイプの記事が含まれ好評を得ており、またこれらの記事のPV・UUから学生がライターとして記事作成に加わったことについても一定の成果が出ている。

4 今後の展望

2019年度開講の3ゼミに加えて、2020年度は専門ゼミⅠおよび専門ゼミⅡ（4年次）が新たに1つずつ「山口型PBL」で実施される予定である。山口県としても初の試みであり、他ゼミも含め、企業と学生・教員との認識のギャップからくる学生の負担感増加など今回明らかとなった課題もあるが、今後もAP事業で整えた「ALを4年間の継続した学び」とする体制のより一層の拡充に努めていく予定である。